

2019年度 GLAFSコアセミナー プログラム

| 月 | 日 | 曜日 | 午前(10:00~12:00) | | 午後(13:00~17:00) | | フィールド実習 |
|-----|------|------------------|-----------------|---|---|---|--|
| | | | G演習 | グループ共同研究発表会/研究進捗状況発表会/懇談会等 | 概要 | セミナー | |
| 4月 | 13日 | 土 | | GLAFS オリエンテーション懇談会 | | | |
| | 20日 | 土 | ① | グループ共同研究発表会1 研究進捗状況発表会1 ライブラリ オリエンテーション | | | |
| | 27日 | 土 | | | 連休 | | |
| 5月 | 4日 | 土 | | | 連休 | | |
| | 11日 | 土 | ② | グループ共同研究活動1 | セミナー1「要介護期の自立を考える:通所介護編」 社会福祉における措置の発想から脱却し、自立支援の時代にふさわしい、当事者ニーズを踏まえた介護サービス(通所編、訪問編、短期入所編)についてアセスメントともに考える。 | 阿部珠江(社会福祉法人 よいち福祉会) 一ノ瀬デイサービス よいち銀座 はくちょう(通所介護事業所)の取り組み | 大槌コミュニティサポート実習/移動支援体験実習 オリエンテーション |
| | 18日 | 土 | | | 五月祭 | | |
| | 25日 | 土 | ③ | 研究進捗状況発表会2 | | | |
| 6月 | 1日 | 土 | ④ | グループ共同研究発表会2 | | | |
| | 8日 | 土 | ⑤ | | セミナー2「生活支援を問直す(自宅で暮らす・最期を過ごす)」 住みなれた自宅で最期まで自分らしく暮らすためには、住まいとケアがどのように連携すればよいのか、要介護になったときの生活支援はどうなっているのだろうか。そこで、住まいとケアサービス、さらには生活支援との連携の最前線を学ぶ。 | 柴田範子(非営利活動法人 楽) 関野幸吉(SOMPOケア株式会社) (G2と運動) | |
| | 15日 | 土 | ⑥ | | セミナー4「グループワーク技法を学ぶ」 当事者が私的生活の深層をみつめ、自分の真のニーズに気づくことを促し、意識変容とともにそれらを政策形成へとつなげていく手法について学ぶ。集団的意思形成手法、小集団の知識を集約し構造化する技法(KJ法型WS)について、実習を通して学ぶ。 | 杉崎和久(法政大学大学院) (共同研究の手法と運動) | |
| | 22日 | 土 | ⑦ | グループ共同研究活動2 | 特別セミナー「Politics of Anguish: How Alzheimer's disease became the malady of the 21st century」 | Mario Garrett (San Diego State University) | |
| | 29日 | 土 | ⑧ | | セミナー3「高齢者に自宅をどう管理するか? バリアフリー・住み替え支援」 高齢者に負担となる戸建住宅の管理について、バリアフリー支援、住み替え支援、リバースモーゲージの活用事例などについて学ぶ。高齢期の在宅生活を支えるための居住環境、その際に必要な要件を検討し、住まいの観点からみた課題解決について理解を深める。 | 岸英恵(積水化学工業株式会社) 久須美則子(コミュニティネットワーク協会・高齢者住宅情報センター東京) (G3-2と運動) | |
| | 7月 | 6日 | 土 | ⑨ | | セミナー11「Soceity 5.0 地域を見る+守る」 心身が弱ってきた高齢者の自立的生活を支えるためには、地域協働の見まもりと生活支援体制が重要となる。地域住民による見守りの最前線を学ぶとともに、住民の限界を専門職との連携やAI等のICT技術の活用によって協働して行う取り組みの最前線を学ぶ。 | 伊藤研一郎(東京大学高齢社会総合研究機構) 牧敦(日立製作所・日立東大ラボ) 高野渉(大阪大学 数理・データ科学教育研究センター) (G7と運動) |
| 8月 | 13日 | 土 | ⑩ | グループ共同研究活動3 | | | |
| | 20日 | 土 | ⑪ | 研究進捗状況発表会3 グループ共同研究発表会3 懇談会 | | | |
| | 27日 | 土 | ⑫ | グループ共同研究活動4 | セミナー6「復興期のコミュニティデザイン」 災害からの復興は社会基盤インフラの近代化を意味するが、しかし被災地においても高齢社会、人生100年時代への対応が求められており、インフラ・住宅だけでなく、生きがいづくり、地域福祉、地域経済などを同時に解決する立体的な復興が求められている。自然災害の多い我が国における災害復興と高齢社会対応についてコミュニティの視点から学ぶ。 | 似内遼一(東京大学高齢社会総合研究機構) (G456と運動) | 実習1 移動支援機器体験 |
| | 3~5日 | 土~月 | | | | | 実習2 大槌コミュニティサポート |
| 10月 | 5日 | 土 | | | セミナー7「団塊スタイル最前線」 70~74歳の高齢者の約半数は、自分のことを高齢者とは思っていない。従前の高齢者向けの楽しみ・生きがいではない、団塊世代の等身大の楽しみ方、生き方の最前線を学ぶ。 | (未定) シニアニーズマーケティング シニアのコミュニティ活動 | 柏地域活動実習/対人ケア実習 オリエンテーション |
| | 12日 | 土 | | グループ共同研究活動4 | | | 実習4 柏地域活動実習(10/14振替) |
| | 19日 | 土 | | グループ共同研究発表会4 | | | |
| | 26日 | 土 | | | セミナー8「Age Friendly City (AFC)」 WHOの目指すAFCと超高齢社会における地方自治体の政策のあり方を考えるとともに、超高齢社会における地方自治体の総合的な政策のあり方について、ともに議論する。 | 秋田市、神奈川県、宝塚市 | |
| 11月 | 2日 | 土 | | | セミナー9「高齢福祉の未来」 最期まで自分らしく、家族や地域とともに暮らしていく実態を知る。そして、人が生き切ることとはどういうことか、そのために家・ケア・医療のみならず、福祉制度はどうあるべきか、まちづくりには何が必要となるのかを考える。 | (未定) 小川利久(エイジングサポート) 小林悦子(一般社団法人生活を支える看護士の会) 住田敦子(NPO尾張東部成年後見センター) 久島和子 三國浩晃 | |
| | 9日 | 土 | | 研究進捗状況発表会4 | | | |
| | 16日 | 土 | | | セミナー10「セカンドライフジョブ」 リタイア後も経験を活かして、自分の役割が果たせるようにするために、社会でどのような支援が必要となるかを考える。 | (未定:G1と運動) | |
| | 23日 | 土・祝日 (勤労感謝の日) | | | 連休 | | |
| | 30日 | 土 | | グループ共同研究活動5 | | | |
| 12月 | 7日 | 土 | | | セミナー5「高齢者の移動を支援する」 高齢者の移動を支援する諸制度(交通バリアフリー法など)について、基礎的なことを学び、最新の論点を学ぶ。高齢者の移動や見守りを支援するための機器は、支援を受ける人の生活の質確保、介護職員の負担軽減などさまざまな観点で期待が高まっており、その実態を把握する。 | 大森宣暁(宇都宮大学地域デザイン科学部)他 | |
| | 14日 | 土 | | | セミナー12「どうしたら最後まで“作って”食べられるか?」 後期高齢者になる1日3食365日の買い物・食事づくりを行うことに体力面での課題が生じる。しかし人は食べなければ暮らせない。栄養が大切という局面から、1日3食をどう確保するか?という局面に当たり、食を中心とした介護予防・生活支援の最前線を学ぶ。 | 老人給食ふきのとうの会 在宅訪問栄養士(日本栄養士会) (G456と運動) | |
| | 21日 | 土 | | グループ共同研究発表会5 研究進捗状況発表会5 懇談会 | | | |
| | 1月 | 11日 | 土 | | セミナー13「リビング・ラボ:ニーズのつなげ方」 超高齢社会対応の製品・サービス開発の手法として注目を集めているリビングラボがもつ可能性について理解を深めたい。 | 鎌倉リビングラボ 地域共創リビングラボ エイジフレンドリーリビングラボ秋田 | |
| 2月 | 18日 | 土 | | | センター試験 | | 実習5 対人ケア実習(平日振替) |
| | 25日 | 土 | | グループ共同研究活動6 | | | |
| | 8日 | 土 | | 研究進捗状況発表会6 | | | |
| 3月 | 7日 | 土 | | 国内報告会 グループ共同研究発表会6 懇談会 | | | |

※ 場所は、午前:工学部8号館7階、午後:工学部3号館31号室を基本とする